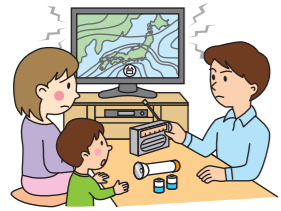


避難の心得

避難のポイント

正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



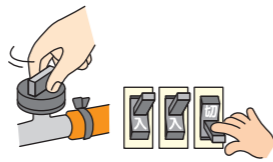
徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなりますので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、電気ブレーカーを落としガスの元栓を閉め避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



要配慮者への協力

お年寄りや子供などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りが避難する場合には、協力しましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。



万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装での避難を

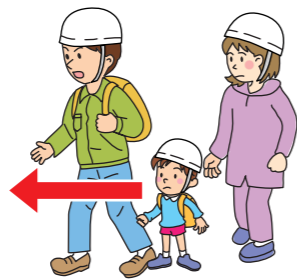
避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。



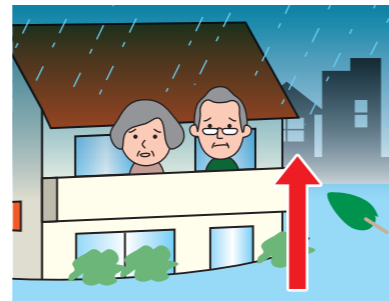
浸水時の水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



避難所への避難
(水平避難)



高所への避難
(垂直避難)

日頃の備え

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック塀・板塀など

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

排水溝

- 側溝や雨水ますにごみや土砂はありませんか

窓

- 窓枠のがたつきはありませんか
- 雨戸のがたつきはありませんか

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナなどはありませんか
- トタンなどがめくけていませんか
- 瓦のひび・割れ・はがれなどはありませんか
- 雨どいにごみや木の葉は溜まっていませんか

その他

- ガスボンベは固定していますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ごみ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

防災に関する関連情報

電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

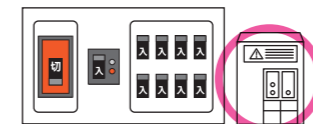
「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

主な感震ブレーカーの種類



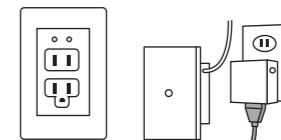
分電盤タイプ(内装型)

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電源を遮断します。



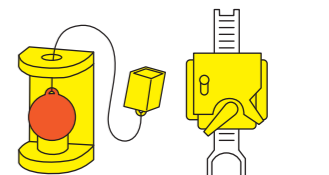
分電盤タイプ(後付型)

分電盤に感震機能を外付けするタイプで、センサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。



コンセントタイプ

コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。



簡易タイプ

ばねの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します。

◎ 器具購入に係る一部の補助を行っています。詳しくは、役場までお問い合わせ下さい。